

朝日特別支援教育通信 NO,2

発行日 H27, 10, 7

文責 朝日小学校 鎌田 隆仙

インクルーシブ教育が進められている中、みなさんに特別支援教育についての正しい知識や考え方についてお知らせするための通信です。不定期ではございますが、一読して頂けるとありがたいです。

環境次第で変わる本人の困り感

通信のNO1で障害という言葉のとらえ方について書かせて頂きました。「障害とは、本人を中心とした困りであり、その困りは環境（人を含めた状況）によって、大きくもなり、小さくもなる。」という内容でした。今回は、もう少し具体例を挙げて説明していきます。

歩行障害を考えてみる <自宅から150m離れたコンビニに行けるかどうか？>

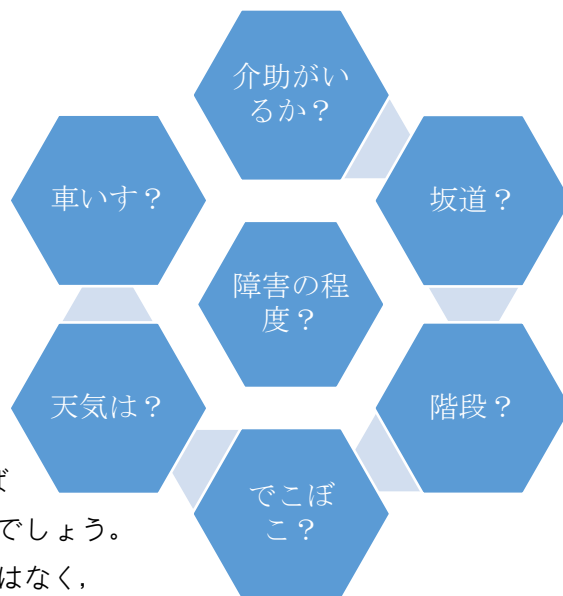
歩行障害の方が、コンビニに行くことへの困りは様々な環境が左右します。本人の歩行障害の状態が中心となり、道路の状態・支援をしてくれる人・天候・季節・役立つ道具・体調・時刻などなど様々な環境の要因によって困難さは変わってきます。

そうです、同じ歩行障害の状態だったとしても、車いすがあっても道路の状態や天気などで楽に行けたりとても行けなかったりするのです。さらに一番大事なのは、本人の意欲やモチベーションです。心の状態が低ければ環境による困難さの以前にコンビニへ行こうとは考えないでしょう。

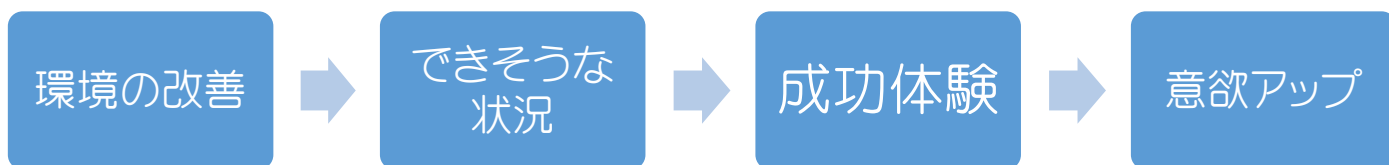
大切なのは、環境を変えて、単純に困りを減らすことではなく、環境を変えて困りを減らすことで、本人の意欲やモチベーションをアップさせることだと、私は考えます。

困り感を抱えている子供たちに「できそうだ!」「やってみたい!」という思いをもってもらい、「できた!」という成功体験を数多く経験してもらいたい。成功体験を繰り返し味わった子供たちは、自信をもち、自分一人で「やってみたい!」という思考につながるはずです。そうなれば、しめたものですよね☆

環境を変えるということは、心の状態をポジティブに変えるということへの第一歩ではないでしょうか。



今回のまとめ



参考出典 2015/7/25 北海道大学教授 安達潤 北海道立特別支援教育センター基調講演より
2015/5/21 国立別支援総合研究所研究員 徳永亜希雄 ICF理論講義より